

		タイトル	一行目	初出	日付	その他出典	
未	272	花のことば	昔々、立身出世という言葉がありました	行友会誌	1946.6月号	夜の太鼓	
私21	21	0	響は0	銀河系	1948.9		
私19	19	この世の中にある	この世の中にある、たつた一つの結び目	銀河系	1948.11	NON・NO 1980.2.5	
私20	20	それを見るのは	花が散った、	銀河系	1948.11		
未	206	食べた鯛	鯛を三匹食べました。	銀河系	1949.2月		
私01	1	原子童話	戦闘開始		1949.9	女性詩 1950.6	銀行員の詩集 1951.7
私22	22	峠	時に 人が通る、それだけ	銀河系	1949.12		
私10	10	よろこびの日に	美しい和子姫		1950.5	銀行員の詩集 1951.7	
私09	9	百人のお腹の中には	テーブルの上に百枚の皿	時間	1950.7		
私37	37	ひめごと	我は鳥を生み 唄うことを教えむ	時間	1950.8		
未	217	手紙	日本に落ちた原子爆弾が	女性詩第2号	1950.9.15		
私24	24	顔 一会議室にて	机の前にたくさんの顔が並んでいる。	時間	1950.9		
未	193	対岸	ある一人の者が、	時間	1950.10.1		
未	166	叙事	「はい、37才の車掌です、	時間	1950.11月		
私02	2	雪崩のとき	人は		1951.1	時間 1951.5	銀行員の詩集 1952.5
私35	35	用意	それは凋落であろうか	時間	1951.1	銀行員の詩集 1951.7	
私23	23	海とりんごと	西伊豆の海岸線に沿って汽船が通っている	時間	1951.2	行友会誌 1951.4	
私11	11	白いものが	私の家では空が少ない	銀行員の詩集	1951.7		
私03	3	祖国	私はこの夏上高地へ行つた、		1951.9	銀行員の詩集 1952.5	
私13	13	私の前にある鍋とお釜と燃える火と	それはながい間	職組時評	1952.2	銀行員の詩集 1952.5	
私12	12	今日もひとりの	ビルが建つ	銀行員の詩集 1952	1952.5		
未	101	寒流	これはいけない	職組時評	1952.6.5	詩之家 1952.10	
私04	4	感想	建長寺の山門をくぐつて		1952.6	銀行員の詩集 1953.7	
私05	5	挨拶 一原爆の写真によせて	あ、	職組時評	1952.8	銀行員の詩集 1953.7	
未	158	出勤簿のうた	雨の降る日も風の日も	行友会誌	1952.12.30		
私39	39	出来ない絵	この絵を貴方にさしあげます	銀行員の詩集 1953	1953.7		
私06	6	天馬の族	お前は天馬の親族だ		1954.1	ポエトロワ 1954.7	詩学9巻13号 1955.1.20
未	103	帰郷	菊薫る日本の秋に	銀行員の詩集1954	1954.7.25		
私07	7	繭	蚕が桑の葉を食べるように	*	1954.7		
私14	14	落花	日曜日の朝の新聞からは	星宴	1954.7		
私28	28	屋根	日本の家は屋根が低い	現代詩	1954.7	銀行員の詩集 1954.7	
未	38	いくさの季節	爆弾が炸裂して	職組時評 *	1954.8.19		
私08	8	夜話	ビキニの灰で	*	1954.9		
私15	15	日記より	一九五四年七月二七日	現代詩	1954.12	銀行員の詩集 1955.9	
未	213	長恨	生きていた日	*	1954年		
私29	29	犬のいる露地のはずれ	私の家の露地の出はずれに芋屋がある、	現代詩	1955.5	ワン 2004.4	
未	121	下品な詩	いまから十年も前のこと	職組時評 *	1955.8.15		
私30	30	貧乏	私がぐちをこぼすと	銀行員の詩集 1955	1955.9		
私25	25	悲劇	京浜国道を霊柩車が走ってきた。	行友ニュース *	1955.12		
未	120	黒い影	五十年	*	1955年(1954.7)		
未	295	ふざけた謝罪	○銀行が首切りを示唆した、とって	*	1955年(1954.9)		
私40	40	ぬげた靴	私の外側は空気でみだされていた	*	1955		
私18	18	手	私のひろげた手	現代詩	1956.1	歷程120 1968.9.1	
未	257	値段	その手は何か?	職組時評	1956.3.22	現代詩 1957.3	
未	351	落伍	その晩、町が焼けただけです	瀧(2) *	1956.7月	行友会誌 1956.12.28	
未	48	上野にて	私は動物園にいる	銀行員の詩集1956	1956.8.25		
私32	32	夫婦	年をとって半身きかなくなつた父が	*	1956.8		
私41	41	風景	待つものはこないだろう	銀行員の詩集 1959	1959.1		
未	18	朝の歩道で	道は、人がひらいた。	*	1956年		
未	39	いじわるの詩	お義母さん	*	1956年		
未	43	犬	シロヤ	*	1956年		
未	84	駆けだす	出勤時間の九時が近づくと	*	1956年		
未	136	この道	メーデーがちょうど日曜にあつた。	*	1956年		
未	160	出発のまえ	何も驚くことはない	*	1955年(1954.12)		
未	267	発言	朝と夜が密接な関係でつながれているように	*	1956年		
未	342	ゆたんぼ	寒い夜です	*	1956年		
未	349	夜の詩	私の家は十坪の敷地に	*	1956年	瀧(5) 1958.12	
未	364	私の日記	朝です	*	1956年		
私31	31	家	夕刻	*	1956		
未	162	掌上千里	七階にある行員食堂で	職組時評 *	1957.1.4		
未	102	記憶	丸の内の一角に	瀧 *	1957.7.10		
私16	16	会議	新潟県燕は洋食器のまち		1957.9	銀行員の詩集 1958.10	
私26	26	盗難	石だたみの上	銀行員の詩集1957	1957.11		
私33	33	月給袋	縦二十糎	銀行員の詩集1957	1957.11		
未	191	それから	私はハンドバックに	*	1957年		
未	321	南伊豆の春	昔から、波勝にはサルがいる	*	1957年		
未	248	南極	永田隊長さま、犬を殺してはなりません	*	1958.2.20		
私17	17	女湯	一九五八年元旦の午前0時	銀行員の詩集 1958	1958.10		
未	184	脊椎の水	脊椎というところには		1958.11.2		
未	2	愛について	お前がそこで立ちどまったなら		1958~1959?		
未	75	会社の椅子	大きな回転椅子に	*	1958年		
未	322	見本	都心をはなれた私鉄電車が	*	1958年(1957.5)		
私34	34	風景	私の寝床は広い	銀行員の詩集 1956	1956.8		
私43	43	落葉がみんな私に	今年の落葉はみんな私に向かって降ってきます、	銀行員の詩集1959	1959.1		
未	320	道のはずれに	ふたつの車輪をつけた荷車は	*	1959.6.4		
未	100	看護婦	私が口を開けば	*(銀行員の詩集応募か)	1959.11.30		
未	148	沈んでいる	あおみをおびた深い湯の中に	*(銀行員の詩集応募か)	1959.12.1		
私42	42	その夜	女ひとり	*	1959		
表25	69	愚息の国	あなたほどなたでいらつしやいますか。	ユリイカ	1960.3		
表26	70	カッパ天国	そこで、お勤めのほうはいかがですか	行友ニュース	1960.5	現代詩 1960.7	
未	133	今年の春	恋人よ	現代詩手帖	1960.7月号		
未	352	ラッシュアワー……だな	なるほど	現代詩手帖 *	1960.8月		
未	23	汗をかく	私は日毎に酸っぱくなる。	銀行員の詩集1960	1960.11.1		
未	190	空と新聞紙	志賀高原にきて	銀行員の詩集1960	1960.11.1		
未	357	レモンとねずみ	きのう買っておいた	銀行員の詩集1960	1960.11.1		
表32	76	家出のすすめ	家は地面のかさぶた	現代詩	1961.5	現代詩手帖 1961.12.1	
表20	64	めくらの祭り	人は待つている	詩学	1961.7		
未	8	明るい墓	女が洗濯籠を抱えて	葡萄 第20号	1961.9.15		
表14	58	崖	戦争の終り、	無限	1961.9		
表36	80	童謡	お父さんが死んだら	現代詩	1961.12		
表37	81	生えてくる	私の家はちいさいのに暮しが重い。	詩人連邦	1962.11		
未	179	捨て科白	そこで私は	掲載不明(興銀関係か)	1962年		
未	134	ことば	私は目でみる	西日本新聞	1963.2.28	鹿児島新報 1963.2.28	
表18	62	貧しい町	一日働いて帰ってくる、	(生活詩シリーズ)	1963.2		
未	150	嫉妬	銭湯で	大阪新夕刊	1963.3.28	スポーツニッポン 1963.4.5	
未	290	百貨店	多くの人は	スポーツ日本	1963.3.29		
表16	60	仲間	行きたい所のある人、	現代詩	1963.3		
表19	63	落語	世間には	詩学	1963.3		
表27	71	銭湯で	東京では	(生活詩シリーズ)	1963.3		

未	25	遊ぶ	ここ	(生活詩シリーズ)	1963. 4. 16			
未	61	エジプト展にて	紀元前一三八〇年ごろの壺が	(生活詩シリーズ)	1963. 4. 30			
未	81	鏡	お前のうつし出してくれるものを	いはらき	1963. 5. 1			
未	111	銀行	お前は	(生活詩シリーズ)	1963. 5. 14			
未	126	高速道路	どうぞ	(生活詩シリーズ)	1963. 5. 21			
未	242	夏みかん	少女が三人	いはらき	1963. 5. 24			
未	353	ランドセル	あなたはちいさい肩に	鹿児島新報	1963. 5. 5			
未	104	きこえない	水槽のなかの熱帯魚	兵庫新聞	1963. 6. 17			
未	124	恋人	君は真珠のネックレスが欲しくないのか、という。	兵庫新聞(夕)	1963. 6. 10			
未	200	たね	花屋の店先きには	兵庫新聞	1963. 6. 3	十勝毎日新聞 1963. 6. 9	鹿児島新報 1963. 7. 11	
未	268	鳩	餌をまくと	いはらき	1963. 6. 5			
表35	79	ちいさい庭	老婆は長い道をくぐりぬけて	(生活詩シリーズ)	1963. 6			
未	45	居眠り	あなたはカモメ	兵庫新聞(夕)	1963. 7. 15			
未	46	いまにも	私が 生きている、ということ	兵庫新聞(夕)	1963. 7. 1			
未	50	伺う	ながい時間をかけて	兵庫新聞	1963. 7. 8			
未	116	くもの巣	白い細い一本のレース糸	兵庫新聞 (夕)	1963. 7. 29			
未	274	浜辺	若い娘が	兵庫新聞 (夕)	1963. 7. 22			
未	6	赤い紙の思い出	私たちは恐れました	鹿児島新報	1963. 8. 17			
未	30	アップリケ	たとえば	(生活詩シリーズ?)	1963. 8. 17			
未	202	旅	爽涼に	鹿児島新報 (日付なし)	1963. 8. 27			
未	234	鳥がなく	夕ぐれになると	夕刊京都	1963. 8. 17			
未	270	話	久しぶりで箱根にきたら	十勝毎日	1963. 8. 6	鹿児島新聞 1963. 8. 7		
未	155	銃	僕が	(生活詩シリーズ)	1963. 9. 3			
未	308	まだ熟れない	はげしい夏の暑さの中で	北海道新聞	1963. 9. 2	中部日本新聞 1963. 9. 5	西日本新聞 1963. 9. 9	
未	348	夜道	足音の近づくと	(生活詩シリーズ)	1963. 9. 10			
未	350	夜の道	ちいさい鉢の中で	十勝毎日	1963. 9. 15			
未	97	枯れる	垣根いっぱい	(生活詩シリーズ)	1963. 10. 1			
未	223	東京の夜	夜中の十二時半	鹿児島新聞	1963. 10. 13			
未	291	貧乏	貧しさとは	十勝毎日	1963. 10. 29			
表09	53	幻の花	庭に	(生活詩シリーズ)	1963. 10			
未	96	枯葉	どいてくれないかな	夕刊京都	1963. 11. 30	鹿児島新報 1963. 12. 2		
未	118	グラウンド	それは	(生活詩シリーズ)	1963. 11. 5			
未	255	猫がなく	ゆきずりに猫を愛撫した	十勝毎日	1963. 11. 11			
未	286	晩秋	手の上で	鹿児島新報	1963. 11. 20	十勝毎日新聞 1963. 11. 26	題名「初冬」	
未	363	若者	皆の体格が	長崎新聞	1963. 11. 18			
未	65	贈り物	十二月	鹿児島新報	1963. 12. 22			
未	68	おでんやのいる風景	子供が背伸びしてのぞいている	(生活詩シリーズ)	1963. 12. 3			
未	89	家族	何かあると	(生活詩シリーズ?)	1963. 12. 9			
未	340	ゆく年	青い空に	(生活詩シリーズ)	1963. 12. 10			
表01	45	シジミ	夜中に目をさました。	新日本文学	1963. 12			
表29	73	ひとり万才	新年	(生活詩シリーズ)	1963. 12			
未	41	一番星	うす暗がりの道で	(生活詩シリーズ?)	1963年頃			
未	114	靴下	少女は素足で働く	(生活詩シリーズ?)	1963年頃			
未	219	電車	いつも通る軌道を	(生活詩シリーズ?)	1963年頃			
未	227	とける	とけるの アイスクリームが	東洋信託銀行しおり	1963~64年頃			
表15	59	健康な漁夫	天空に海苔シビのようなものが並び	無限	1964. 2			
未	132	今年の水瓜	この頃	行友ニュース	1964. 7. 25			
未	235	なかよし	子供の次郎は		1964. 11. 27			
未	40	伊豆下田寝姿山山上の碑文について	五島慶太は伊豆と共に生きている		1964年			
表10	54	島	姿見の中に私が立っている。	朝日新聞	1965. 4			
未	94	ガラスふき	彼はいつも	行友ニュース	1965. 5. 10			
未	1	あいさつ	ビル街の朝の歩道に	朝日新聞	1965. 6. 23			
表30	74	弔詞	ここに書かれたひとつの名前から、ひとりの人が立ちあがる。	行友ニュース	1965. 8			
表06	50	旅情	ふと覚めた枕もとに	(歷程詩集 未刊)	1965. 10			
未	167	初冬	私の家には庭がない	電信電話	1965. 11月			
表12	56	冠	奥歯を一本抜いた	歷程	1965. 12			
未	139	五月姫	五月がくるといつも口ずさむ		1965年			
表08	52	花	夜ふけ、ふと目をさました。	歷程	1966. 2			
未	172	新年	それは昨日に続く今日の上	詩と批評	1966. 5月	ユーモアの鎖国		
表21	65	海のながめ	海は青くない	無限	1966. 5			
表13	57	杖突峠	信州諏訪湖の近くに	詩学	1966. 6			
表03	47	表札	自分の住むところには	詩と批評	1966. 9			
表07	51	海辺	ふるさとは	詩人連邦	1966. 9			
表11	55	えしやく	私は私をほぐしはじめる。	草原	1966. 11			
表17	61	藁	午前の仕事を終え、	詩と批評	1967. 1	詩人会議 1975. 5		
表28	72	公共	夕日でゆける	詩と批評	1967. 5			
未	186	仙石原	そうり	葡萄 第28号	1967. 11月			
未	195	たいる・かあてん	そこまできたら		1968. 3. 2			
未	180	すべては欲しいものばかり	ナンニモイラナイ		1968. 4. 29			
未	182	スルメ	干される		1968. 5. 8			
表22	66	土地・家屋	ひとつの場所に	詩と批評	1968. 5	現代詩手帖11巻12号 1968. 12. 1		
表33	77	干してある	私の肩にかかる	歷程	1968. 5			
表04	48	くらし	食わずには生きてゆけない。	歷程	1968. 6	詩と批評 1968. 12		
未	76	海浜の蝶	芝生に蝶が舞う		1968. 7. 8			
未	214	手	喫茶店の出窓に	歷程	1968. 9月			
表02	46	子供	子供。	歷程	1968. 9	フローリア 1972. 3		
表05	49	夜毎	深いネムリとは	歷程	1968. 9	伊豆新聞 1997. 12		
表23	67	鬼の食事	泣いていた者も目をあげた。	歷程	1968. 9	現代詩手帖 1968. 12. 1	ユリイカ 1970. 12. 1	
表24	68	経済	買ってきた一束の花を	歷程	1968. 9			
表31	75	唱歌	みえない、朝と夜がこんなに早く入れ替わるのに。	歷程	1968. 9			
表34	78	母の顔	家は古い	歷程	1968. 9			
未	112	くちびる	たった一ヶ所	本の手帖	1969. 2. 3			
未	128	声	釘に		1969. 2. 1			
未	151	紫斑病	両腕の中にひらいた	歷程	1969. 2月			
未	212	父の教え	母の笑顔は	歷程	1969. 2月			
未	264	葉かげ	ずいぶん	ひろば	1969. 2. 15号			
略42	124	十三夜	いま私の住んでいる所が	歷程	1969. 2			
略17	99	種子	そういうことは	歷程	1969. 3			
略21	103	モン	二本の足で立つ。	詩学	1969. 3			
略19	101	町	いいかい	歷程	1969. 4			
未	256	猫だった猫が	そうなんと	群像	1969. 5月	ユーモアの鎖国		
未	273	母の景色	母は	朝日新聞	1969. 5. 10	ノートルモンテ 1991. 4月号		
未	334	やみの中から	鏡のうしろは黒いから	今週の日本	1969. 5. 12			
略18	100	遙拝	いつか一度、	歷程	1969. 6			
略28	110	旅	イラナイ	歷程	1969. 6			
略39	121	地平線	鏡の中で今日の顔が黒ずんでいる。	文藝春秋	1969. 6			
略16	98	白い猫	いまとなって	歷程	1969. 7	鳩よ! 1988. 2		
略20	102	水槽	熱帯魚が死んだ。	歷程	1969. 7			
未	17	朝の生活 築地魚市場	荷揚げ場は海のまないた	朝日新聞	1969. 8. 1	夜の太鼓 P. 175		
未	22	汗だく	グラウンドにイガグリの目立つところは	朝日新聞	1969. 8. 15			
未	243	夏休み	町がすっかり薄ぎたなくなると	朝日新聞	1969. 8. 22			

未	331	やがて	川が流れる	郵政 創刊20周年記念号	1969.8月号		
略03	85	村	ほんとうのことをいうのは	花・現代詩	1969.8		
略36	118	水	小学校の庭の片すみにプールがありました。	朝日新聞	1969.8		
未	90	家族旅行	駅頭という言葉は	朝日新聞	1969.9.5		
未	32	アメリカ	隣りに住んでいた新聞記者が		1969.10.14		
未	56	器	ふるさとは		1969.10.19		
未	159	出発	花嫁はいちばんすみの席を選んだ	びえろた 創刊号	1969.11.1	ユーモアの鎖国	現代性教育研究 1976.12月号
未	358	連呼案	政治の選挙がはじまった。	新日本文学	1969.12月		
未	144	事件	町の舗道橋の下で		1969頃か		
未	192	大	むかし		1969		
未	161	正月	八ツ頭を買った。	婦人民主新聞	1970.1.1		
未	168	白い風景	高い山のいただきの白	労働文化	1970.2月号		
略43	125	河口	足は歩いてきた道の長さに伸びる。	文藝	1970.2		
略44	126	荷	荷を持つと	文藝	1970.2		
略45	127	式のあとで	戦争で死んだ兵士の叙勲は	文藝	1970.2		
略46	128	女	それでもまだ信じていた。	文藝	1970.2		
略47	129	子守唄	いちにち	文藝	1970.2		
略33	115	劇評	階級という言葉	歷程	1970.4		
略40	122	夕鶴	それが	歷程	1970.4		
略41	123	風俗	このごろ	詩学	1970.4		
未	183	静物	食卓の下は深い	アルプ147号	1970.5月		
未	281	春の旗	土手の桜は	社会新報	1970.5.3	うたごえ新聞 '78.5.1	
未	31	雨の庭	アラビヤに着いたとき	新潟日報	1970.6.2		
未	53	美しい人	新潟に行くとその人がいる。	新潟日報	1970.6.16		
未	86	加治川	空が流れている。	新潟日報	1970.6.30		
未	99	川のほとり	川の中を魚が泳ぐ。	新潟日報	1970.6.23		
未	361	六月の影	木の葉だった	新潟日報	1970.6.9		
略34	116	信用	けさは雨に打たれていた。	都市	1970.7		
未	293	プールサイド	君/ひとりだけ水につかり	労働文化	1970.8.1		
未	302	へんな地平線	ついに線で終わっている。	ピエロタ	1970.9月号		
未	318	店ひらく	ショーウィンドは	八重洲京橋日本橋創刊号	1970.11.1		
未	*5	構成詩 あやまち			1970		
未	*6	(ペルー地震の詩)			1970		
未	49	上を下へ	大臣閣下は	政界往来	1971.2		
未	339	雪の朝	並木は枝をひろげ	労働文化	1971.2月号		
未	131	五月の隣人	キミは	社会新報	1971.5.1		
未	329	燃やす	緑がもえる という	九重華	1971.5.1		
略29	111	着物	犬に着物をさせるのは	草月	1971.5		
未	77	買物	店はいいものだ	八重洲京橋日本橋初夏号	1971.6.25		
未	9	秋	ススキの上を	労働文化	1971.9月号		
略37	119	別れ	伊豆松崎の港から船に乗った。	文藝春秋	1971.10		
未	326	目撃者	ねえダンナ		1971.11.20		
略35	117	情況	私は疑い深い	新潮	1972.6		
未	152	自分たちの空を信じていない	一九七二年七月二四日朝	四日市公害訴訟判決の日 名古屋にて朗読	1972.7.24	歷程大冊 1973.6	
未	208	食べ物	魚市場の	いづみ	1972.10月		
未	299	ふるさと	久しぶりで海辺の里に帰った。	ユリイカ	1972.10月		
略14	96	わたくしをそそぐ	ラッシュアワーを少しすぎた	ユリイカ	1972.10		
未	251	二月のあかり	二月には	絵本と子ども	1973.2月号		
未	220	伝達	すぐそこまで来ていた。訪問先にかけ込むと	一枚の絵	1973.5月		
未	60	うわこと	病気になるなら、と思った	季刊「医療と人間と」二号	1973.6.30		
未	225	童謡	私が子供のころ蓄音機には	旅	1973.6月号		
略04	86	儀式	母親は	婦人之友	1973.9		
略31	113	ミサ曲	タオさんは	文学界	1973.10		
未	63	おき火	わが日本の風景は	朝日新聞	1974.1.3		
未	315	まぶたの下に	「こどもさん こどもさん 夢を上げよう。」	社会新報・第二部	1974.1.1		
略06	88	きのうの顔	いちにち	詩とメルヘン	1974.3		
未	73	貝	きょう休暇をとった。		1974.5		
未	199	たとえば	一週間の長さは どのくらい？	四國新聞	1974.5.9	京都新聞 1974.5.12	秋田さきがけ 1974.6.11
略02	84	洗たく物	私どもは身につけたものを	みや通信	1974.6		
未	74	貝がら	はいてきた靴をぬいで	京都新聞	1974.7.14	四國新聞 1974.8.11	
未	169	字を書く	きょうは七夕です。	新潟日報	1974.7.7	四國新聞 1974.7.7	
未	317	水のうた	川の浅瀬で	京都新聞	1974.8.11	四國新聞 1974.9.15	秋田さきがけ 1974.9.16 岩手日報 1979.8.25
未	13	秋の器	火を落とした窯の中から	京都新聞	1974.9.8		
未	10	秋	ふるさとへ帰ると	京都新聞	1974.10.13	秋田さきがけ 1974.10.21	
未	15	秋のものさし	つわぶきに花が咲くと	京都新聞	1974.11.10	四國新聞 1974.11.24	秋田さきがけ 1974.11.25
未	47	イメージ	かつてタマガワはそのような道筋で流れたと	読売新聞	1974.11.10		
未	230	年を越える	そして さしかかる	京都新聞	1974.12.8		
未	198	たそがれの光景	私が三十年以上働いてきたのは	とうきょう広報 増刊号	1974年		
未	29	新しい風景のほとり	新幹線の窓から富士が見える。	四國新聞	1975.1.12	京都新聞 1975.1.26	
未	196	凧	少年は凧を揚げた。	赤旗	1975.1.19		
未	336	雪	日暮れどき	京都新聞	1975.2.23	四國新聞 1975.2.23	秋田さきがけ 1950.2.24
略32	114	ケムリの道	服役者平沢貞通は	ユリイカ	1975.2		
未	276	春	デパートの学用品売り場で	京都新聞	1975.3.23	四國新聞 1975.3.23	秋田さきがけ 1975.3.24
未	341	ゆく春	四国の少年が立っている	四國新聞	1975.4.20		
未	107	木の株	その人は	四國新聞	1975.5.25		
未	333	やさしさ	大きな国が	赤旗	1975.5.11		
略22	104	へんなオルゴール	ところは銚子	四季	1975.5		
未	7	あかね列車	僕の部屋は	詩とメルヘン	1975.6月号		
未	127	高度成長	家には屋根があった。	秋田さきがけ	1975.6.2	四國新聞 1975.6.15	
未	360	六月の顔	ことしは六月一日に	秋田さきがけ	1975.6.23		
未	305	星祭り	七夕さまに上げるのは	四國新聞	1975.7.6	秋田さきがけ 1975.7.7	
未	240	夏のハカリ	じきに夏休みが終わります。	四國新聞	1975.8.17		
未	5	青刈り—新潟・国営魚野川東部開拓—	国土に植えたのは	赤旗	1975.9.14		
未	78	会話	小さな公園のベンチに	四國新聞	1975.9.14	秋田さきがけ 1975.9.22	西日本新聞 1975.9.15
未	146	仕事	家の中はとてものにぎやかです。	東武ハウジングNo.19	1975.9.1		
未	354	陸地	肌にふれる風が	四國新聞	1975.10.5		
未	287	悲願	去年 日本中に	四國新聞	1975.11.2	秋田さきがけ 1975.11.3	熊本日日新聞 1975.11.4
未	64	おくにさん	お国さん		1975.12.2		
未	66	落葉の足音	ひとつの庭の	四國新聞	1975.12.7	秋田さきがけ 1975.12.8	岩手日報 1980.11.29
未	*7	トビアの船—ある夏の思い出		テレビ静岡	1975		
未	26	新しい年	新しい年はどこからくるのでしょうか。	教育じほう FM東京放送	1976.1.1		
未	93	鎌のように	一月は	赤旗	1976.1.11		
未	260	祝詞	新年はどこからくる？	四國新聞※後半脱落	1976.1.4		
略15	97	定年	ある日	民主文学	1976.1		
未	55	器	茶碗の底に見えている	旅	1976.2		
未	249	二月	冬の空に	四國新聞	1976.2.1	秋田さきがけ 1976.2.2	
未	337	雪	高原のよく晴れた朝。	四國新聞	1976.2.22	秋田さきがけ 1976.2.24	
未	16	朝の会話	「四月には	四國新聞	1976.3.28	秋田さきがけ 1976.3.29	
未	280	春の潮	三月はためされる月。	四國新聞	1976.3.7	秋田さきがけ 1976.3.9	
未	319	道	ふるさとは	みち 創立20周年記念号	1976.3月		

未	85	かげろう	四月には	東京新聞	1976.4.4			
未	232	土手の話	私が住んでいるアパートの近くに土手があります。	とうきょう広報 増刊号	1976.4.24			
未	258	ネッシー	ネッシー	自由時間	1976.4月号			
未	33	洗う—母の日に—	母親は洗う	赤旗	1976.5.9			
未	210	たんぼぼ	土手に咲いた	四國新聞	1976.5.2	秋田さきがけ	1976.5.10	
未	266	走る	高速道路をゆく	四國新聞	1976.6.20	秋田さきがけ	1976.6.21	
略01	83	朝のパン	毎朝	「手づくりのパンとお菓子」	1976.6			
未	67	お出かけ	光る	四國新聞	1976.7.4			
未	149	支度	デパートの呉服売り場で	四國新聞	1976.8.29	秋田さきがけ	1976.8.30	
未	181	駿河台下	そのとき私は	歷程214号	1976.8月号			
未	239	夏の朝	市場で	四國新聞	1976.8.1	秋田さきがけ	1976.8.2	
略38	120	福島潟	初夏の干拓地に農民が田植えをした。	文藝春秋	1976.8			
未	236	長良川	大雨で堤防が切れた。	赤旗	1976.9.26			
略24	106	神楽坂	いつか出版クラブの婦りみち	歷程	1976.9			
未	215	堤防	この間	秋田さきがけ	1976.10.4			
未	224	燈台	仕事で徹夜をすると	四國新聞	1976.10.31			
略25	107	まこちゃんが死んだ日	まこちゃんが 死んだ日	歷程	1976.10			
未	141	散歩	散歩はぜいたくなものだ。	みや通信→不使用	1976.12.1			
未	177	スズメ	スズメが窓に来はじめて	四國新聞	1976.12.12	秋田さきがけ	1976.12.13	
未	42	一票	近くのいちょう並木が	赤旗	1977.1.9			
未	154	シャボンの月	一月は	四國新聞	1977.1.9	秋田さきがけ	1977.1.10	
略07	89	新年の食卓	元日に	共同通信	1977.1			
未	250	二月	一月のカレンダーをめくると	四國新聞	1977.2.6	秋田さきがけ	1976.2.7	
未	265	運ぶ人	園芸店の店先に	四國新聞	1977.3.20			
未	277	春	大ぜいのマラソン選手が	四國新聞	1977.4.3	秋田さきがけ	1977.4.5	
略11	93	略歴	私は連隊のある町で生まれた。	短歌	1977.4			
略26	108	空をかついで	肩は	幼年時代	1977.4			
未	4	青い空のほとり	空があっても	明るい革新都政	1977.5.30			
未	171	新茶	茶どころから	四國新聞	1977.5.8	秋田さきがけ	1977.5.9	岩手日報 1978.5.25
未	328	もめんの船	港には	野生時代	1977.5月号			
未	226	時計	ことしも	四國新聞	1977.6.5	秋田さきがけ	1977.6.6	
略08	90	鏡	殿様のおほめにあずかった男が	アート・アップ	1977.6	全人教育	1978.1月号	
略13	95	木	友だちを送りに	ユリイカ	1977.6			
未	275	バラソル	マーケットで	四國新聞	1977.7.24			
略09	91	海	深い海の底のほうから	サンケイ新聞	1977.7	全人教育	1978.1月号	
略10	92	夏の本	夏が	みや通信	1977.8			
未	207	旅へ	夏の庭に	秋田さきがけ	1977.9.26	四國新聞	1977.10.8	全人教育 1978.1月号
未	301	塀の外	運動会には	四國新聞	1977.10.22	秋田さきがけ	1977.10.24	日刊福井 1978.10.23
略30	112	池	中部山岳地帯の	歷程	1977.10			
未	313	窓	道に沿って	日刊福井	1977.11.21	四國新聞	1977.11.26	秋田さきがけ 1977.11.28 岩手日報 1978.10.28
未	156	十二月の灯	ことしも	秋田さきがけ	1977.12.26			
未	284	晴着	むかし 娘さんたちは		1977.12.22			
未	222	東京の童話	赤ずきんちゃん気をつけてね		1977年か			
未	*8	(徳山村)			1977			
未	157	祝祭	にんげんが	四国新聞	1978.1.14	日刊福井	1978.1.15	新潟日報 1978.1.15
未	269	花	道には	みや通信→不使用か?	1978.2.9			
未	338	雪	降る雪が	秋田さきがけ	1978.2.6	四國新聞	1978.2.11	日刊福井 1978.2.12 岩手日報 1979.2.10
略12	94	行く	木が	現代詩手帖	1978.2			
未	140	三月	早春の日暮れどき	新潟日報	1978.3.1	四國新聞	1978.3.4	日刊福井 1978.3.5 秋田さきがけ 1978.3.6
未	129	五月	片手を上げると	四國新聞	1978.4.29	秋田さきがけ	1978.5.1	新潟新聞 1978.5.4
未	143	四月	そよ風が吹いてきました。	新潟日報	1978.4.1	四國新聞	1978.4.1	秋田さきがけ 1978.4.3 日刊福井 1978.4.9
略23	105	追悼	今日より石原吉郎氏を記念して	詩学	1978.4			
略27	109	大根	山本栄作さんというお人は	詩人会議	1978.4			
未	362	六月の木の下で	遠くに大きな木が一本	秋田さきがけ	1978.6.19	日刊福井	1978.6.25	
未	335	夕月	向こうから	秋田さきがけ	1978.7.11	日刊福井	1978.7.13	四國新聞 1978.7.22
未	34	蟻	夏空の下	秋田さきがけ	1978.8.7	四國新聞	1978.8.26	
未	137	こよみ	ことしも	四國新聞	1978.9.9	秋田さきがけ	1978.9.14	新潟日報 1978.9.15 日刊福井 1978.9.15
未	35	アリ	蟻という字をたしかめようと	民主文学	1978.10月			
未	122	健康器具	ちかごろ流行の	民主文学	1978.10月			
未	355	リレーレース	おやじさんは	四國新聞	1978.10.14	秋田さきがけ	1978.10.23	
未	153	写真	湖のほとりで	秋田さきがけ	1978.11.20			
未	285	晩秋	十一月が終わるころ		1978.11.27			
未	119	暮れる	乾いた洗たく物のように	新潟日報	1978.12.29	秋田さきがけ	1978.12.30	日刊福井 1978.12.31 北海道新聞 1978.12.31
未	365	私は台所で	道の向こうに	M&M	1978.12月号			
未	36	言い草	みんな	現代詩手帖	1979.1月号			
未	311	祭りの日には	そこまで伸びると	秋田さきがけ	1979.1.15			
未	345	夢の中	水の上を	秋田さきがけ	1979.2.15			
未	130	五月の晩餐	ひかり波立つ	秋田さきがけ	1979.4.30			
未	283	春の芽	春です	秋田さきがけ	1979.4.2	新潟日報	1979.4.5	
略05	87	鬼籬	あれは妹が十八のとき	詩とメルヘン	1979.4			
や19	149	父の日に	向こうに 立っている お父さん。	みや通信	1979.6			
未	323	迎え火	盂蘭盆の七月十三日の宵には	秋田さきがけ	1979.7.10			
未	69	おばあさんがきたら	大臣が 省エネ・ルックを着て	女性のひろば	1979.8月号			
や16	146	希望の方角	狭い空地に	みや通信	1979.8			
未	314	窓	古い家が建っている。	秋田さきがけ	1979.9.19			
未	3	愛の花散るとき	ご町内の皆様に申し上げます。		1979.10.26			
未	216	手紙	奥さま		1979.11.13			
未	356	リンゴ園で	りんごの花は上を向いて咲きます。	秋田さきがけ	1979.11.7			
未	52	歌声	信号が変わると	秋田さきがけ	1979.12.3			
未	72	終わりの花びら	私たちは花に	秋田さきがけ	1979.12.31			
や05	135	経済	エコノミック・アニマル	地下鉄「神宮駅前」壁面に掲示	1979.12			
未	24	汗を流したあと	町に虹が架かるのは	社会新報	1980.1.11	社会新報読者のひろば係行きハガキに転載		
未	27	新しい年	食品に添加物の多い時代は	女性のひろば	1980.1月号			
未	115	首飾りなど	それはちょっとした徴候だった。	現代詩手帖	1980.1月号			
未	233	とびら	このごろ	秋田さきがけ	1980.1.28			
未	110	距離	いつも	信濃毎日新聞	1980.2.12	秋田さきがけ	1980.2.20	
や01	131	喜び	男は	文藝	1980.2			
や15	145	地方	私のふるさとは	共同通信	1980.2			
未	218	天候	朝新幹線で東京を発つ時		1980.3.3			
未	303	帽子	黒田三郎さん	詩学	1980.3月号			
未	304	包装	園芸店の店先に	信濃毎日新聞	1980.3.17	秋田さきがけ	1980.3.24	
や08	138	やさしい言葉	祝いごとに	小説新潮	1980.3			
や31	161	兵士の世代	聞くところによると	詩人会議	1980.3			
や36	166	早春の旅	四国は土佐の桂浜で	読売新聞	1980.3			
未	71	おやすみなさい	おやすみなさい。	東海テレビ・クロージング	1980.4月	夜の太鼓		
や22	152	跳躍	私の住む町は坂が多い。	みや通信	1980.4			
や23	153	春の日	道端に	文藝春秋	1980.4			
未	57	馬の背に	五月が	秋田さきがけ	1980.5.21	信濃毎日新聞	1980.5.26	
や32	162	坂道	若い詩人が	歷程	1980.5			

や09	139	還暦	あれは大正が昭和に変わろうとする	日本経済新聞	1980.6			
や10	140	穴	石畳の四角い石と石の継ぎ目を	日本経済新聞	1980.6			
や11	141	同時代	あるとき彼は言った。	日本経済新聞	1980.6			
や12	142	雀	東京の雀は	日本経済新聞	1980.6			
や13	143	道	土に埋めて置いた木の実が	日本経済新聞	1980.6			
や20	150	時の記念日に	私たちが一日のうちに	みや通信	1980.6			
や21	151	銀河	隣の電話が鳴っています。	みや通信	1980.7			
未	117	雲の行方	平野の上に雲が立つと	秋田さきがけ	1980.8.27	岩手日報 1980.8.29	信濃毎日新聞 1980.10.13	
や17	147	川のある風景	夜の底には	毎日新聞	1980.8			
や27	157	コブラ	目的はピストルであった	みや通信	1980.8			
未	231	年をとりました	年をとると	秋田さきがけ	1980.9.10	信濃毎日新聞 1980.9.22		
未	11	秋風	よく晴れた日の午後	秋田さきがけ	1980.10.15	信濃毎日新聞 1980.10.20		
未	108	休刊日	おめでとう	(文藝春秋不掲載)	1980.10月号			
未	62	エレベーター坊主	エレベーターがとまると	子どもの館	1980.11月号			
未	203	旅立ち	たまに旅をすることになると	秋田さきがけ	1980.11.6	信濃毎日新聞 1980.11.11		
未	370	無題	私たちは知っていた。	テレビ静岡「日本の夜明け」未使用	1981(1980.11月)			
未	105	昨日の敵	ベランダの床に	秋田さきがけ	1980.12.10	信濃毎日新聞 1980.12.15		
未	83	かがり火	友だちから	信濃毎日新聞	1981.1.19	秋田さきがけ 1981.1.21		
未	289	日の出	東の空があかるんで来ました。	テレビ静岡「日本の夜明け」	1981.1.1			
未	366	無題	あなたには	テレビ静岡「日本の夜明け」未使用	1981.1.1			
や33	163	太陽の光を提灯にして	私たち 太陽の光を 提灯にして	テレビ静岡「日本の夜明け」	1981.1	びいぶる 1985.1月号	労働ニュース臨時増刊号 1985.12.2	
未	278	春	ちいさい森のはずれに	秋田さきがけ	1981.3.11	信濃毎日新聞 1981.3.23		
未	282	春の日に	晴れた朝	女性のひろば	1981.3月号			
未	307	舞う	風に散る	秋田さきがけ	1981.4.11	信濃毎日新聞 1981.4.13		
や02	132	おみやげ	近年	ユリイカ	1981.4	びう 1988.2		
や30	160	酔余 - 中山王国文物展 -	王に愛された犬は	日本経済新聞	1981.4			
未	237	流れの岸	私	新潟日報	1981.5.2			
や18	148	鮎	さかのぼるのよ。	みや通信	1981.6			
未	271	花束	旅先でもらった花の一束は	新潟日報	1981.7.11	信濃毎日新聞 1981.7.20	秋田さきがけ 1981.7.25	
や26	156	青い鏡	雲の中を飛んでいたジェット機が	みや通信	1981.8			
や39	169	大橋というところ	其処は たぶん只今	花神	1981.8			
未	325	めぐりながら	ことしの夏も	秋田さきがけ	1981.9.19	新潟日報 1981.9.19	信濃毎日新聞 1981.9.21	
未	204	旅のねむり	夜中の三時	新潟日報	1981.10.24	信濃毎日新聞 1981.10.26	秋田さきがけ 1981.12.5	
や25	155	晴れた日に	車一台通れるほどの	みや通信	1981.11			
や38	168	原町市にて	原町は なんにもないところです と	福岡県現代詩人会会報	1981.11			
未	138	さざんか	アパートの庭に	(みや通信社)	1981.12.21			
未	28	新しい年	人は	テレビ静岡「日本の夜明け」	1982.1.1			
未	59	海辺の人	浜辺に立つと	テレビ静岡「日本の夜明け」	1982.1.1			
未	95	枯草	冬の日ざしが	新潟日報	1982.1.16	秋田さきがけ 1982.1.16		
未	79	顔	まるい地球の	新潟日報	1982.2.13			
や04	134	ことば	生き生きと	文學界	1982.2			
未	109	今日の十二時	東京の有名なホテルで	新潟日報	1982.3.20			
未	371	無題	我ら三人姉弟		1982.3.24			
未	262	生える	夜が明けた	飛ぶ教室	1982.4			
や06	136	向こうから来た人	このごろ 生き甲斐を求める人がふえてきた。	新宿センタービルB1・木の広場に掲示	1982.5			
や28	158	きのうの夢	子供たちは	朝日新聞	1982.7			
や37	167	洗剤のある風景	夕暮れの日本海は曇天の下	女性のひろば	1982.7			
や24	154	勝負	向こうから	文藝春秋	1982.12			
未	54	美しい村	ふるさと川のほとりに	映画「ふるさと」パンフレット	1982年			
や34	164	初日が昇るとき	さあ みんな	テレビ静岡「日本の夜明け」	1983.1			
や14	144	挨拶状	鉄筋コンクリートの建物は	現代詩手帖	1983.3			
や29	159	演歌	海には航空母艦が浮かんでいます	海	1983.6			
や03	133	摘み草	東京丸の内で摘み草をした。	いしゅたる	1983.7			
や07	137	木のイメージ	台風による大雨洪水で	文學界	1983.11			
や35	165	夜明けの風景	ある年の冬	赤旗	1984.1	小学生のお母さん1985.1	チャレンジママ 1985.1.1	
未	247	波	海の波はよせてくる	別冊婦人公論	1984.4 春号	教科通信1987.10.15		
未	123	恋うた	東海道は丸子の宿	小説新潮	1984.6月	夜の太鼓「蟬」に抜粋		
未	279	はるかな岩	子供のとき伊豆半島の船旅をした。	文藝春秋	1984.8月号			
未	82	鏡の前	新調した麻のワンピースを着て	明日の友 増刊8号	1984.10月			
未	229	年の始めに	元旦は種播きの日	テレビ静岡「日本の夜明け」	1985年			
未	309	待つ	新年を迎える朝	テレビ静岡「日本の夜明け」	1985年			
未	164	叙景	二十何年ぶりで逗子に行った。	現代詩手帖	1985.1月			
未	245	那覇の宿にて	広いお部屋に案内されました		1985.2.20			
未	98	川	春先になると孵化した鮭の稚魚を川に放し	BACCHUS	1985.5月号			
未	92	かなしみ	私は六十五歳です。	びわの実学校131号	1985.9.20	現代詩手帖 1985.12		
未	20	明日葉	アシタバを採りに	季刊R*6	1985.11月	夜の太鼓あとがき		
未	292	風景	お母さん	季刊R*6	1985.11月	夜の太鼓あとがき		
未	147	地震計	この間まで年号といえば昭和	文藝春秋	1986.1月号			
未	194	太陽のほとり	太陽	テレビ静岡「日本の夜明け」	1986.1.1			
未	241	夏の夜	洗濯物の乾いてゆくのが	現代詩手帖	1986.9月	現代詩手帖 1986.12		
未	163	消息	十二湖は 私にとって 遠いところだった。	現代詩手帖	1987.1月			
未	175	新年のことば	地球は 天の畑です。	テレビ静岡「日本の夜明け」	1987.1.1			
未	185	せせらぎ	財布をあけると かすかな音が聞こえる	女性のひろば	1987.3月号			
未	58	海辺	もう十何年	花神1号	1987.5月	現代詩手帖 1987.12		
未	197	田子の月 たごっこ	さかのぼるのよ/田子っこ	田子の月広告	1987.10.			
未	221	天の果実	天空に 青い木の実の かたちして	テレビ静岡「日本の夜明け」	1988.1.1			
未	135	このごろ	私のいのちの前半は	女性のひろば	1988.3月			
未	296	浮上	それは	鳩よ!	1988.10月号	現代詩手帖 1988.12		
未	173	新年	若い日のことでした	読売新聞	1989.1.1	現代詩手帖 1989.12		
未	259	のぞみ ひらく	のぞみを	テレビ静岡「日本の夜明け」	1989.1.1			
未	201	旅	国鉄が	女性のひろば	1989.8月			
未	70	おべんとう	東京発12時、博多行きひかり	読売新聞	1989.12.9			
未	306	舗道で	夜更けて	読売新聞	1989.12.2			
未	327	物語	昭和が終わったとき	読売新聞	1989.12.16			
未	176	新年のロケット	一九九〇年	テレビ静岡「日本の夜明け」	1990.1.1			
未	91	かたみ	いつか秘書の難波幸子さんが	歷程	1990.2月	草野心平研究 2009.11		
未	330	門	草野さんの交遊	歷程	1990.2月			
未	142	潮騒	薔薇色の 地獄の	鳩よ!	1990.5月号	現代詩手帖 1990.12		
未	297	船の記憶	秋が更けていた	民主文学	1990.12月			
未	174	新年事始め	人は 成長しました	テレビ静岡「日本の夜明け」	1991.1.1	婦人之友 1991.2月号		
未	205	旅のはじめに	人は歳月の渡り鳥です	テレビ静岡「日本の夜明け」	1991.1.1			
未	263	墓	いつか裸になって	文藝春秋	1991.6月	現代詩手帖 1991.10		
未	310	松島にて	地球は 天の食卓です。	テレビ静岡「日本の夜明け」	1992.1.1			
未	252	二月の朝風呂	寒い浴室で	東京新聞	1992.2.3	現代詩手帖 1992.12		
未	300	分別	人間は 死ねばゴミになる		1992.6.4			
未	344	夢の島	戦争で 東京は焼野原になった。	東京新聞	1992.10.1			
未	21	明日に光あれ	暗黒の宇宙	テレビ静岡「日本の夜明け」	1992年			
未	368	無題	人は 水平線に	テレビ静岡「日本の夜明け」未使用	1992年			
未	312	松尾寺	東京・渋谷の駅ビル構内に	朝日新聞	1994.5.6	現代詩手帖 1994.12		
未	316	湖一二題	スコットランド/泣いている人の	民主文学	1994.8月			
未	288	悲願	西暦二〇〇〇年	掲載誌不明	2000?			
未	367	無題	ここにきて		2002.6.16			

私27	27	三十の抄	牛蒡はサクサクと身をそぎ	(~1959)			
私36	36	私はこの頃	海に最後の潮が満ちたとでもいうのか	(~1959)			
私38	38	この光あふれる中から	ここにこうして いつまでもいることは出来ないのですか? お母さん、	(~1959)			
未	12	秋田にて	十一月の				
未	14	秋の空	空には窓がある	* (銀行員の詩集応募か)			
未	19	あしたのさよなら	さよなら、人よ				
未	37	行く先	どこへ行くんだ				
未	44	犬	西陽のあたる				
未	51	うた	ラジオから				
未	80	顔	靴屋さんを				
未	87	風	君は若いね				
未	88	假説	髪の毛は天に根を張っている。				
未	106	木の顔	ネムの木は				
未	113	靴	靴屋さんの店先は				
未	125	工場のタバコ	工場で				
未	145	シヨタマ節	あんまりびんぼうしたもので				
未	165	(序詞)	ある夏の夕暮れ時				
未	170	真実かなしく	お葬式の日に				
未	178	雀	ベランダに				
未	187	選別	地震が				
未	188	早春	小学校を昭和の初期に卒業しましたが				
未	189	その人の名はいえない	もく もく もく				
未	209	暖国へ	四国の旅をした。				
未	211	ちいさいときから	草は地の面にはびこる				
未	228	年の始めに	海の港	(テレビ静岡「日本の夜明け」)			
未	238	流れる	五月の風が吹いてきた				
未	244	なのはな	なのはな				
未	246	鍋のスープ	母親はちいさいお玉じゃくして				
未	253	虹	虹が出ると				
未	254	虹	虹がかかる				
未	261	歯	いつからだろう				
未	294	フォークランド	生まれてこのかた				
未	298	冬の道	かたいつぼみのように				
未	324	メガネ	おじいさんのかけてる				
未	332	「やくそく」	春にはモナリザがくる、という				
未	343	ゆめ	死ぬことは				
未	346	ゆりかごのうた	夜がきたら				
未	347	世に愚かなれど	お前はバカだね				
未	359	レンズ	年をとると	(みや通信社へ)			
未	369	無題	私たちの世界では 時に	(テレビ静岡「日本の夜明け」)			

未刊詩年代順 一石垣りん文学記念室収蔵資料による

・未刊詩出典最終項は、「思」 - 「現代詩文庫46石垣りん詩集」思潮社刊 「中」 - 「現代の詩人5石垣りん」中央公論社刊 「空」 - 「空をかついで」童話屋刊 「宇」 - 「宇宙の片間で一石垣りん詩集」理論社刊 「特」 - 「現代詩手帖特集版 石垣りん」思潮社刊 「レ」 - 「レモンとねずみ」童話屋刊 である。

	タイトル	一行目	初出	日付	その他出典		
未	272	花のことば	昔々、立身出世という言葉がありました	行友会誌	1946.6月号	夜の太鼓	
未	206	食べた鯛	鯛を三匹食べました。	銀河系	1949.2月		
未	217	手紙	日本に落ちた原子爆弾が	女性詩第2号	1950.9.15		
未	193	対岸	ある一人の者が、	時間	1950.10.1		
未	166	叙事	「はい、37才の車掌です、	時間	1950.11月		
未	101	寒流	これはいけない	職組時評	1952.6.5	詩之家 1952.10	
未	158	出勤簿のうた	雨の降る日も風の日も	行友会誌	1952.12.30		
未	103	帰郷	菊薫る日本の秋に	銀行員の詩集1954	1954.7.25		
未	38	いくさの季節	爆弾が炸裂して	職組時評 *	1954.8.19		
未	213	長恨	生きていた日	*	1954年		
未	121	下品な詩	いまから十年も前のこと	職組時評 *	1955.8.15		
未	120	黒い影	五十年	*	1955年(1954.7)		
未	295	ふざけた謝罪	○銀行が首切りを示唆した、とって	*	1955年(1954.9)		
未	257	値段	その手は何か?	職組時評	1956.3.22	現代詩 1957.3	
未	351	落伍	その晩、町が焼けたのです	濤(2) *	1956.7月	行友会誌 1956.12.28	
未	48	上野にて	私は動物園にいる	銀行員の詩集1956	1956.8.25		
未	18	朝の歩道で	道は、人がひらいた。	*	1956年		
未	39	いじわるの詩	お義母さん	*	1956年		レ
未	43	犬	シロや	*	1956年		
未	84	駆けだす	出勤時間の九時が近づくと	*	1956年		
未	136	この道	メーデーがちょうど日曜にあたった。	*	1956年		
未	160	出発のまえ	何も驚くことはない	*	1956年(1955.12)		
未	267	発言	朝と夜が密接な関係でつながれているように	*	1956年		
未	342	ゆたんぼ	寒い夜です	*	1956年		レ
未	349	夜の詩	私の家は十坪の敷地に	*	1956年	濤(5) 1958.12	レ
未	364	私の日記	朝です	*	1956年		レ
未	162	掌上千里	七階にある行員食堂で	職組時評 *	1957.1.4		
未	102	記憶	丸の内の一角に	濤 *	1957.7.10		
未	191	それから	私はハンドバックに	*	1957年		
未	321	南伊豆の春	昔から、波勝にはサルがいる	*	1957年		
未	248	南極	永田隊長さま、犬を殺してはなりません	*	1958.2.20		
未	184	脊椎の水	脊椎というところには		1958.11.2		レ
未	2	愛について	お前がそこで立ちどまったなら		1958~1959?		
未	75	会社の椅子	大きな回転椅子に	*	1958年		
未	322	見本	都心をはなれた私鉄電車が	*	1958年(1957.5)		
未	320	道のはずれに	ふたつの車輪をつけた荷車は	*	1959.6.4		
未	100	看護婦	私が口を開けば	*(銀行員の詩集応募か)	1959.11.30		
未	148	沈んでいる	あおみをおびた深い湯の中に	*(銀行員の詩集応募か)	1959.12.1		レ
未	133	今年の春	恋人よ	現代詩手帖	1960.7月号		
未	352	ラッシュアワー……だな	なるほど	現代詩手帖 *	1960.8月		
未	23	汗をかく	私は日毎に酸っぱくなる。	銀行員の詩集1960	1960.11.1		
未	190	空と新聞紙	志賀高原にきて	銀行員の詩集1960	1960.11.1		
未	357	レモンとねずみ	きのう買っておいた	銀行員の詩集1960	1960.11.1		レ
未	8	明るい墓	女が洗濯籠を抱えて	葡萄 第20号	1961.9.15		
未	179	捨て科白	そこで私は	掲載不明(興銀関係か)	1962年		
未	134	ことば	私は目でみる	西日本新聞	1963.2.28	鹿児島新報 1963.2.28	
未	150	嫉妬	銭湯で	大阪新夕刊	1963.3.28	スポーツニッポン 1963.4.5	
未	290	百貨店	多くの人は	スポーツ日本	1963.3.29		
未	25	遊ぶ	ここ	(生活詩シリーズ)	1963.4.16		
未	61	エジプト展にて	紀元前一三〇年ごろの壺が	(生活詩シリーズ)	1963.4.30		
未	81	鏡	お前のうつし出してくれるものを	いはらき	1963.5.1		
未	111	銀行	お前は	(生活詩シリーズ)	1963.5.14		
未	126	高速道路	どうぞ	(生活詩シリーズ)	1963.5.21		
未	242	夏みかん	少女が三人	いはらき	1963.5.24		レ
未	353	ランドセル	あなたはちいさい肩に	鹿児島新報	1963.5.5		レ
未	104	きこえない	水槽のなかの熱帯魚	兵庫新聞	1963.6.17		
未	124	恋人	君は真珠のネックレスが欲しくないのか、という。	兵庫新聞(夕)	1963.6.10		レ
未	200	たね	花屋の店先きには	兵庫新聞	1963.6.3	十勝毎日新聞 1963.6.9	鹿児島新報 1963.7.11
未	268	鳩	餌をまくと	いはらき	1963.6.5		
未	45	居眠り	あなたはカモメ	兵庫新聞(夕)	1963.7.15		レ
未	46	いまにも	私が 生きています、ということ	兵庫新聞(夕)	1963.7.1		
未	50	伺う	ながい時間をかけて	兵庫新聞	1963.7.8		
未	116	くもの巣	白い細い一本のレース糸	兵庫新聞(夕)	1963.7.29		
未	274	浜辺	若い娘が	兵庫新聞(夕)	1963.7.22		
未	6	赤い紙の思い出	私たちは恐れました	鹿児島新報	1963.8.17		レ
未	30	アップリケ	たとえば	(生活詩シリーズ?)	1963.8.17		
未	202	旅	爽涼に	鹿児島新報(日付なし)	1963.8.27		
未	234	鳥がなく	夕ぐれになると	夕刊京都	1963.8.17		
未	270	話	久しぶりで箱根にきたら	十勝毎日	1963.8.6	鹿児島新聞 1963.8.7	
未	155	銃	僕が	(生活詩シリーズ)	1963.9.3		
未	308	まだ熟れない	はげしい夏の暑さの中で	北海道新聞	1963.9.2	中部日本新聞 1963.9.5	西日本新聞 1963.9.9
未	348	夜道	足音の近づくとき	(生活詩シリーズ)	1963.9.10		
未	350	夜の道	ちいさい鉢の中で	十勝毎日	1963.9.15		レ
未	97	枯れる	垣根いっぱい	(生活詩シリーズ)	1963.10.1		
未	223	東京の夜	夜中の十二時半	鹿児島新聞	1963.10.13		
未	291	貧乏	貧しさとは	十勝毎日	1963.10.29		
未	96	枯葉	どいてくれないかな	夕刊京都	1963.11.30	鹿児島新報 1963.12.2	レ
未	118	グラウンド	それは	(生活詩シリーズ)	1963.11.5		
未	255	猫がなく	ゆきずりに猫を愛撫した	十勝毎日	1963.11.11		
未	286	晩秋	手の上で	鹿児島新報	1963.11.20	十勝毎日新聞 1963.11.26	題名「初冬」
未	363	若者	皆の体格が	長崎新聞	1963.11.18		レ
未	65	贈り物	十二月	鹿児島新報	1963.12.22		レ
未	68	おでんやのいる風景	子供が背伸びしてのぞいている	(生活詩シリーズ)	1963.12.3		
未	89	家族	何かあると	(生活詩シリーズ?)	1963.12.9		
未	340	ゆく年	青い空に	(生活詩シリーズ)	1963.12.10		
未	41	一番星	うす暗がりの道で	(生活詩シリーズ?)	1963年頃		
未	114	靴下	少女は素足で働く	(生活詩シリーズ?)	1963年頃		
未	219	電車	いつも通る軌道を	(生活シリーズ?)	1963年頃		
未	227	とける	とけるの アイスクリームが	東洋信託銀行しおり	1963~64年頃		
未	132	今年の水瓜	この頃	行友ニュース	1964.7.25		
未	235	なかよし	子供の次郎は		1964.11.27		レ
未	40	伊豆下田寝姿山山上の碑文について	五島慶太は伊豆と共に生きている	なし	1964年		
未	94	ガラスふき	彼はいつも	行友ニュース	1965.5.10		
未	1	あいさつ	ビル街の朝の歩道に	朝日新聞	1965.6.23		
未	167	初冬	私の家には庭がない	電信電話	1965.11月		
未	139	五月姫	五月がくるといつも口ずさむ		1965年		
未	172	新年	それは昨日に続く今日の上	詩と批評	1966.5月	ユーモアの鎖国	宇
未	186	仙石原	そうり	葡萄 第28号	1967.11月		
未	195	たいる・かあてん	そこまできたら		1968.3.2		

未	180	すべては欲しいものばかり	ナンニモイラナイ		1968. 4. 29					レ
未	182	スルメ	干される		1968. 5. 8					
未	76	海浜の蝶	芝生に蝶が舞う		1968. 7. 8					
未	214	手	喫茶店の出窓に	歷程	1968. 9月					
未	112	くちびる	たった一ヶ所	本の手帖	1969. 2. 3					
未	128	声	釘に	なし	1969. 2. 1					レ
未	151	紫斑病	両腕の中にひらいた	歷程	1969. 2月					
未	212	父の教え	母の笑顔は	歷程	1969. 2月					
未	264	葉かげ	ずいぶん	ひろば	1969. 2. 15号					
未	256	猫だった猫が	そうなると	群像	1969. 5月	ユーモアの鎖国				
未	273	母の景色	母は	朝日新聞	1969. 5. 10	ノートルモント 1991. 4月号				思・レ
未	334	やみの中から	鏡のうしろは黒いから	今週の日本	1969. 5. 12					
未	17	朝の生活 築地魚市場	荷揚げ場は海のまないた	朝日新聞	1969. 8. 1	夜の太鼓 P. 175				思
未	22	汗だく	グラウンドにイガグリの目立つところは	朝日新聞	1969. 8. 15					思
未	243	夏休み	町がすっかり薄ぎたなくなると	朝日新聞	1969. 8. 22					思
未	331	やがて	川が流れる	郵政 創刊20周年記念号	1969. 8月号					
未	90	家族旅行	駅頭という言葉は	朝日新聞	1969. 9. 5					思・中
未	32	アメリカ	隣りに住んでいた新聞記者が		1969. 10. 14					
未	56	器	ふるさとは		1969. 10. 19					
未	159	出発	花嫁はいちばんすみの席を選んだ	びえろた 創刊号	1969. 11. 1	ユーモアの鎖国	現代性教育研究 1976. 12月号			
未	358	連呼案	政治の選挙がはじまった。	新日本文学	1969. 12月					
未	144	事件	町の舗道橋の下で		1969頃か					
未	192	大	むかし		1969					
未	161	正月	八ツ頭を買った。	婦人民主新聞	1970. 1. 1					
未	168	白い風景	高い山のいただきの白	労働文化	1970. 2月号					
未	183	静物	食卓の下は深い	アルプ147号	1970. 5月					
未	281	春の旗	土手の桜は	社会新報	1970. 5. 3	うたごえ新聞 ' 78. 5. 1				
未	31	雨の庭	アラビヤに着いたとき	新潟日報	1970. 6. 2					
未	53	美しい人	新潟に行くとその人がいる。	新潟日報	1970. 6. 16					思
未	86	加治川	空が流れている	新潟日報	1970. 6. 30					
未	99	川のほとり	川の中を魚が泳ぐ。	新潟日報	1970. 6. 23					思
未	361	六月の影	木の葉だった	新潟日報	1970. 6. 9					
未	293	プールサイド	君/ひとりだけ水につかり	労働文化	1970. 8. 1					
未	302	へんな地平線	ついに線で終わっている。	ピエロタ	1970. 9月号					
未	318	店ひらく	ショーウインドは	八重洲京橋日本橋創刊号	1970. 11. 1					
未	* 5	構成詩 あやまち			1970					
未	* 6	(ペルー地震の詩)			1970					
未	49	上を下へ	大臣閣下は	政界往来	1971. 2					
未	339	雪の朝	並木は枝をひろげ	労働文化	1971. 2月号					
未	131	五月の隣人	キミは	社会新報	1971. 5. 1					
未	329	燃やす	緑がもえる という	九重華	1971. 5. 1					
未	77	買物	店はいいものだ	八重洲京橋日本橋初夏号	1971. 6. 25					
未	9	秋	ススキの上を	労働文化	1971. 9月号					
未	326	目撃者	ねえダンナ		1971. 11. 20					
未	152	自分たちの空を信じていない	一九七二年七月二四日朝	四日市公害訴訟判決の日	1972. 7. 24	歷程大冊 1973. 6				
未	208	食べ物	魚市場の	いづみ	1972. 10月					
未	299	ふるさと	久しぶりで海辺の里に帰った。	ユリイカ	1972. 10月					
未	251	二月のあかり	二月には	絵本と子ども	1973. 2月号					
未	220	伝達	すぐそこまで来ていた。訪問先にかけ込むと	一枚の絵	1973. 5月					
未	60	うわこと	病気になるなら、と思った	季刊「医療と人間と」二号	1973. 6. 30					
未	225	童謡	私が子供のころ蓄音機には	旅	1973. 6月号					
未	63	おき火	わが日本の風景は	朝日新聞	1974. 1. 3					
未	315	まぶたの下に	「こどもさん こどもさん 夢を上げよう。」	社会新報・第二部	1974. 1. 1					レ
未	73	貝	きょう休暇をとった。	なし	1974. 5					
未	199	たとえば	一週間の長さは どのくらい？	四國新聞	1974. 5. 9	京都新聞 1974. 5. 12	秋田さきがけ 1974. 6. 11			
未	74	貝がら	はいてきた靴をぬいで	京都新聞	1974. 7. 14	四國新聞 1974. 8. 11				
未	169	字を書く	きょうは七夕です。	新潟日報	1974. 7. 7	四國新聞 1974. 7. 7				
未	317	水のうた	川の浅瀬で	京都新聞	1974. 8. 11	四國新聞 1974. 9. 15	秋田さきがけ 1974. 9. 16	岩手日報 1979. 8. 25		
未	13	秋の器	火を落とした窯の中から	京都新聞	1974. 9. 8					
未	10	秋	ふるさとへ帰ると	京都新聞	1974. 10. 13	秋田さきがけ 1974. 10. 21				
未	15	秋のものさし	つわぶきに花が咲くと	京都新聞	1974. 11. 10	四國新聞 1974. 11. 24	秋田さきがけ 1974. 11. 25			
未	47	イメージ	かつてタマガワはそのような道筋で流れたと	読売新聞	1974. 11. 10					
未	230	年を越える	そして さしかかる	京都新聞	1974. 12. 8					レ
未	198	たそがれの光景	私が三十年以上働いてきたのは	とうきょう広報 増刊号	1974年					
未	29	新しい風景のほとり	新幹線の窓から富士が見える。	四國新聞	1975. 1. 12	京都新聞 1975. 1. 26				
未	196	凧	少年は凧を揚げた。	赤旗	1975. 1. 19					
未	336	雪	日暮れどき	京都新聞	1975. 2. 23	四國新聞 1975. 2. 23	秋田さきがけ 1975. 2. 24			
未	276	春	デパートの学用品売り場で	京都新聞	1975. 3. 23	四國新聞 1975. 3. 23	秋田さきがけ 1975. 3. 24			
未	341	ゆく春	四国の少年が立っている	四國新聞	1975. 4. 20					
未	107	木の株	その人は	四國新聞	1975. 5. 25					
未	333	やさしさ	大きな国が	赤旗	1975. 5. 11					レ
未	7	あかね列車	僕の部屋は	詩とメルヘン	1975. 6月号					
未	127	高度成長	家には屋根があった。	秋田さきがけ	1975. 6. 2	四國新聞 1975. 6. 15				
未	360	六月の顔	ことしは六月一日に	秋田さきがけ	1975. 6. 23					
未	305	星祭り	七夕さまに上げるのは	四國新聞	1975. 7. 6	秋田さきがけ 1975. 7. 7				
未	240	夏のハカリ	じきに夏休みが終わります。	四國新聞	1975. 8. 17					
未	5	青刈り一新潟・国営魚野川東部開拓一	国土に植えたのは	赤旗	1975. 9. 14					
未	78	会話	小さな公園のベンチに	四國新聞	1975. 9. 14	秋田さきがけ 1975. 9. 22	西日本新聞 1975. 9. 15			
未	146	仕事	家の中はとてものにぎやかです。	東武ハウジングNo. 19	1975. 9. 1					
未	354	陸地	肌にふれる風が	四國新聞	1975. 10. 5					
未	287	悲願	去年 日本中に	四國新聞	1975. 11. 2	秋田さきがけ 1975. 11. 3	熊本日日新聞 1975. 11. 4			
未	64	おくにさん	お国さん		1975. 12. 2					
未	* 7	トビアの船—ある夏の想い出		テレビ静岡	1975					
未	26	新しい年	新しい年はどこからくるのでしょうか。	教育じほう FM東京放送	1976. 1. 1					
未	93	鎌のように	一月は	赤旗	1976. 1. 11					
未	260	祝詞	新年はどこからくる？	四國新聞※後半脱落	1976. 1. 4					
未	55	器	茶碗の底に見えている	旅	1976. 2					
未	249	二月	冬の空に	四國新聞	1976. 2. 1	秋田さきがけ 1976. 2. 2				
未	337	雪	高原のよく晴れた朝。	四國新聞	1976. 2. 22	秋田さきがけ 1976. 2. 24				
未	16	朝の会話	「四月には	四國新聞	1976. 3. 28	秋田さきがけ 1976. 3. 29				
未	280	春の潮	三月はためされる月。	四國新聞	1976. 3. 7	秋田さきがけ 1976. 3. 9				
未	319	道	ふるさとは	みち 創立20周年記念号	1976. 3月					
未	85	かげろう	四月には	東京新聞	1976. 4. 4					
未	232	土手の話	私が住んでいるアパートの近くに土手があります。	とうきょう広報 増刊号	1976. 4. 24					
未	258	ネッシー	ネッシー	自由時間	1976. 4月号					
未	33	洗う—母の日に—	母親は洗う	赤旗	1976. 5. 9					レ
未	210	たんぼぼ	土手に咲いた	四國新聞	1976. 5. 2	秋田さきがけ 1976. 5. 10				レ
未	266	走る	高速道路をゆく	四國新聞	1976. 6. 20	秋田さきがけ 1976. 6. 21				
未	67	お出かけ	光る	四國新聞	1976. 7. 4					
未	149	支度	デパートの呉服売り場で	四國新聞	1976. 8. 29	秋田さきがけ 1976. 8. 30				
未	181	駿河台下	そのとき私は	歷程214号	1976. 8月号					
未	239	夏の朝	市場で	四國新聞	1976. 8. 1	秋田さきがけ 1976. 8. 2				
未	236	長良川	大雨で堤防が切れた。	赤旗	1976. 9. 26					

未	215	堤防	この間	秋田さきがけ	1976. 10. 4				
未	224	燈台	仕事で徹夜をすると	四國新聞	1976. 10. 31				
未	141	散歩	散歩はぜいたくなものだ。	みや通信→不使用	1976. 12. 1				
未	177	スズメ	スズメが窓に来はじめて	四國新聞	1976. 12. 12	秋田さきがけ	1976. 12. 13		
未	42	一票	近くのいちょう並木が	赤旗	1977. 1. 9				
未	154	シャボン	一月は	四國新聞	1977. 1. 9	秋田さきがけ	1977. 1. 10		
未	250	二月	一月のカレンダーをめくると	四國新聞	1977. 2. 6	秋田さきがけ	1976. 2. 7		
未	265	運ぶ人	園芸店の店先に	四國新聞	1977. 3. 20				
未	277	春	大ぜいのマラソン選手が	四國新聞	1977. 4. 3	秋田さきがけ	1977. 4. 5		
未	4	青い空のほとり	空があっても	明るい革新都政	1977. 5. 30				
未	171	新茶	茶どころから	四國新聞	1977. 5. 8	秋田さきがけ	1977. 5. 9	岩手日報	1978. 5. 25
未	328	もめん	港には	野生時代	1977. 5月号				
未	226	時計	ことしも	四國新聞	1977. 6. 5	秋田さきがけ	1977. 6. 6		
未	275	パラソル	マーケットで	四國新聞	1977. 7. 24				
未	207	旅へ	夏の庭に	秋田さきがけ	1977. 9. 26	四國新聞	1977. 10. 8(土)	全人教育	1978. 1月号
未	301	塀の外	運動会には	四國新聞	1977. 10. 22	秋田さきがけ	1977. 10. 24	日刊福井	1978. 10. 23
未	313	窓	道に沿って	日刊福井	1977. 11. 21	四國新聞	1977. 11. 26	秋田さきがけ	1977. 11. 28
未	156	十二月の灯	ことしも	秋田さきがけ	1977. 12. 26				
未	284	晴着	むかし 娘さんたちは		1977. 12. 22				
未	222	東京の童話	赤ずきんちゃん気をつけてね		1977年か				
未	* 8	(徳山村)			1977				
未	157	祝祭	にんげんが	四國新聞	1978. 1. 14	日刊福井	1978. 1. 15	新潟日報	1978. 1. 15
未	269	花	道には	みや通信→不使用か?	1978. 2. 9				
未	338	雪	降る雪が	秋田さきがけ	1978. 2. 6	四國新聞	1978. 2. 11	日刊福井	1978. 2. 12
未	140	三月	早春の日暮れどき	新潟日報	1978. 3. 1	四國新聞	1978. 3. 4	日刊福井	1978. 3. 5
未	129	五月	片手を上げると	四國新聞	1978. 4. 29	秋田さきがけ	1978. 5. 1	新潟新聞	1978. 5. 4
未	143	四月	そよ風が吹いてきました。	新潟日報	1978. 4. 1	四國新聞	1978. 4. 1	秋田さきがけ	1978. 4. 3
未	362	六月の木の	遠くに大きな木が一本	秋田さきがけ	1978. 6. 19	日刊福井	1978. 6. 25		
未	335	夕月	向こうから	秋田さきがけ	1978. 7. 11	日刊福井	1978. 7. 13	四國新聞	1978. 7. 22
未	34	蟻	夏空の下	秋田さきがけ	1978. 8. 7	四國新聞	1978. 8. 26		
未	137	こよみ	ことしも	四國新聞	1978. 9. 9	秋田さきがけ	1978. 9. 14	新潟日報	1978. 9. 15
未	35	アリ	蟻という字をたしかめようと	民主文学	1978. 10月				
未	122	健康器具	ちかごろ流行の	民主文学	1978. 10月				
未	355	リレーレース	おやじさんは	四國新聞	1978. 10. 14	秋田さきがけ	1978. 10. 23		
未	153	写真	湖のほとり	秋田さきがけ	1978. 11. 20				
未	285	晩秋	十一月が終わるころ		1978. 11. 27				
未	119	暮れる	乾いた洗たく物のように	新潟日報	1978. 12. 29	秋田さきがけ	1978. 12. 30	日刊福井	1978. 12. 31
未	365	私は台所で	道の向こうに	M&M	1978. 12月号				
未	36	言い草	みんな	現代詩手帖	1979. 1月号				
未	311	祭りの日には	そこまで伸びると	秋田さきがけ	1979. 1. 15				
未	345	夢の中	水の上を	秋田さきがけ	1979. 2. 15				
未	130	五月の晩餐	ひかり波立つ	秋田さきがけ	1979. 4. 30				
未	283	春の芽	春です	秋田さきがけ	1979. 4. 2	新潟日報	1979. 4. 5		
未	323	迎え火	盂蘭盆の七月十三日の宵には	秋田さきがけ	1979. 7. 10				
未	69	おばあさんがきたら	大臣が 省エネ・ルックを着て	女性のひろば	1979. 8月号				
未	314	窓	古い家が建っている。	秋田さきがけ	1979. 9. 19				
未	3	愛の花散るとき	ご町内の皆様に申し上げます。		1979. 10. 26				
未	216	手紙	奥さま		1979. 11. 13				
未	356	リンゴ園で	りんごの花は上を向いて咲きます。	秋田さきがけ	1979. 11. 7				
未	52	歌声	信号が変わると	秋田さきがけ	1979. 12. 3				
未	72	終わりの花びら	私たちは花に	秋田さきがけ	1979. 12. 31				
未	24	汗を流したあと	町に虹が架かるのは	社会新報	1980. 1. 11	社会新報読者のひろば係行きハガキに転載			
未	27	新しい年	食品に添加物の多い時代は	女性のひろば	1980. 1月号				
未	115	首飾りなど	それはちよっとした徴候だった。	現代詩手帖	1980. 1月号				
未	233	とびら	このごろ	秋田さきがけ	1980. 1. 28				
未	110	距離	いつも	信濃毎日新聞	1980. 2. 12	秋田さきがけ	1980. 2. 20		
未	218	天候	朝新幹線で東京を発つ時		1980. 3. 3				
未	303	帽子	黒田三郎さん	詩学	1980. 3月号				
未	304	包装	園芸店の店先に	信濃毎日	1980. 3. 17	秋田さきがけ	1980. 3. 24		
未	71	おやすみなさい	おやすみなさい。	東海テレビ・クロージング	1980. 4月	夜の太鼓			中・空
未	57	馬の背に	五月が	秋田さきがけ	1980. 5. 21	信濃毎日新聞	1980. 5. 26		
未	117	雲の行方	平野の上に雲が立つと	秋田さきがけ	1980. 8. 27	岩手日報	1980. 8. 29	信濃毎日新聞	1980. 10. 13
未	231	年をとりました	年をとると	秋田さきがけ	1980. 9. 10	信濃毎日新聞	1980. 9. 22		
未	11	秋風	よく晴れた日の午後	秋田さきがけ	1980. 10. 15	信濃毎日新聞	1980. 10. 20		
未	108	休刊日	おめでとう	(文藝春秋不掲載)	1980. 10月号				
未	62	エレベーター坊主	エレベーターがとまると	子どもの館	1980. 11月号				
未	66	落葉の足音	ひとつの庭の	岩手日報	1980. 11. 29	四國新聞	1980. 12. 7	秋田さきがけ	1975. 12. 8
未	203	旅立ち	たまに旅をすることになると	秋田さきがけ	1980. 11. 6	信濃毎日新聞	1980. 11. 11		
未	370	無題	私たちは知っていた。	テレビ静岡「日本の夜明け」未使用	1981 (1980. 11月)				
未	105	昨日の敵	ベランダの床に	秋田さきがけ	1980. 12. 10	信濃毎日新聞	1980. 12. 15		
未	83	かがり火	友だちから	信濃毎日新聞	1981. 1. 19	秋田さきがけ	1981. 1. 21		
未	289	日の出	東の空があかるんで来ました。	テレビ静岡「日本の夜明け」	1981. 1. 1				
未	366	無題	あなたには	テレビ静岡「日本の夜明け」未使用	1981. 1. 1				
未	278	春	ちいさい森のはずれに	秋田さきがけ	1981. 3. 11	信濃毎日新聞	1981. 3. 23		レ
未	282	春の日に	晴れた朝	女性のひろば	1981. 3月号				
未	307	舞う	風に散る	秋田さきがけ	1981. 4. 11	信濃毎日新聞	1981. 4. 13		
未	237	流れの岸	私	新潟日報	1981. 5. 2				
未	271	花束	旅先でもらった花の一束は	新潟日報	1981. 7. 11	信濃毎日新聞	1981. 7. 20	秋田さきがけ	1981. 7. 25
未	325	めぐりながら	ことしの夏も	秋田さきがけ	1981. 9. 19	新潟日報	1981. 9. 19	信濃毎日新聞	1981. 9. 21
未	204	旅のねむり	夜中の三時	新潟日報	1981. 10. 24	信濃毎日新聞	1981. 10. 26	秋田さきがけ	1981. 12. 5
未	138	さざんか	アパートの庭に	(みや通信社)	1981. 12. 21				
未	28	新しい年	人は	テレビ静岡「日本の夜明け」	1982. 1. 1				
未	59	海辺の人	浜辺に立つと	テレビ静岡「日本の夜明け」	1982. 1. 1				
未	95	枯草	冬の日ざしが	新潟日報	1982. 1. 16	秋田さきがけ	1982. 1. 16		
未	79	顔	まるい地球の	新潟日報(夕)	1982. 2. 13				
未	109	今日の十二時	東京の有名なホテルで	新潟日報	1982. 3. 20				
未	371	無題	我ら三人姉弟		1982. 3. 24				
未	262	生える	夜が明けた	飛ぶ教室	1982. 4 春季号				
未	54	美しい村	ふるさと川のほとりに	映画「ふるさと」パンフレット	1982年				
未	247	波	海の波はよせてくる	別冊婦人公論	1984. 4 春号	教科通信(教育出版)	1987. 10. 15		レ
未	123	恋うた	東海道は丸子の宿	小説新潮	1984. 6月	夜の太鼓「蟬」に抜粋			
未	279	はるかな岩	子供のとき伊豆半島の船旅をした。	文藝春秋	1984. 8月号				
未	82	鏡の前	新調した麻のワンピースを着て	明日の友 増刊8号	1984. 10月				
未	229	年の始めに	元旦は種播きの日	テレビ静岡「日本の夜明け」	1985年				
未	309	待つ	新年を迎える朝	テレビ静岡「日本の夜明け」	1985. 1月				
未	164	叙景	二十何年ぶりにかて逗子に行った。	現代詩手帖	1985. 1月				特
未	245	那覇の宿にて	広いお部屋に案内されました		1985. 2. 20				
未	98	川	春先になると孵化した鮭の稚魚を川に放し	BACCHUS	1985. 5月号				
未	92	かなしみ	私は六十五歳です。	びわの実学校131号	1985. 9. 20	現代詩手帖	1985. 12		特・レ
未	20	明日葉	アシタバを採りに	季刊R*6	1985. 11月	夜の太鼓あとがき			
未	292	風景	お母さん	季刊R*6	1985. 11月	夜の太鼓あとがき			空
未	147	地震計	この間まで年号といえば昭和	文藝春秋	1986. 1月号				
未	194	太陽のほとり	太陽	テレビ静岡「日本の夜明け」	1986. 1. 1				空
未	241	夏の夜	洗濯物の乾いてゆくのが	現代詩手帖	1986. 9月	現代詩手帖	1986. 12		特

未	163	消息	十二湖は 私にとって 遠いところだった。	現代詩手帖	1987.1月				特
未	175	新年のことば	地球は 天の畑です。	テレビ静岡「日本の夜明け」	1987.1.1				
未	185	せせらぎ	財布をあけると かすかな音が聞こえる	女性のひろば	1987.3月号				
未	58	海辺	もう十何年	花神1号	1987.5月	現代詩手帖 1987.12			特
未	197	田子の月 たごっこ	さかのぼるのよ／田子っこ	田子の月広告	1987.10				
未	221	天の果実	天空に 青い木の実の かたちして	テレビ静岡「日本の夜明け」	1988.1.1				
未	135	このごろ	私のいのちの前半は	女性のひろば	1988.3月				
未	296	浮上	それは	鳩よ！	1988.10月号	現代詩手帖 1988.12			特
未	173	新年	若い日のことでした	読売新聞	1989.1.1	現代詩手帖 1989.12			特
未	259	のぞみ ひらく	のぞみを	テレビ静岡「日本の夜明け」	1989.1.1				
未	201	旅	国鉄が	女性のひろば	1989.8月				
未	70	おべんとう	東京発12時、博多行きひかり	読売新聞	1989.12.9				
未	306	舗道で	夜更けて	読売新聞	1989.12.2				
未	327	物語	昭和が終わったとき	読売新聞	1989.12.16				
未	176	新年のロケット	一九九〇年	テレビ静岡「日本の夜明け」	1990.1.1				
未	91	かたみ	いつか秘書の難波幸子さんが	歷程	1990.2月	草野心平研究 2009.11			
未	330	門	草野さんの交遊	歷程	1990.2月				
未	142	潮騒	薔薇色の 地獄の	鳩よ！	1990.5月号	現代詩手帖 1990.12			特
未	297	船の記憶	秋が更けていた	民主文学	1990.12月				
未	174	新年事始め	人は 成長しました	テレビ静岡「日本の夜明け」	1991.1.1	婦人之友 1991.2月号			
未	205	旅のはじめに	人は歳月の渡り鳥です	テレビ静岡「日本の夜明け」	1991.1.1				
未	263	墓	いつか裸になって	文藝春秋	1991.6月	現代詩手帖 1991.10			特・レ
未	310	松島にて	地球は 天の食卓です。	テレビ静岡「日本の夜明け」	1992.1.1				
未	252	二月の朝風呂	寒い浴室で	東京新聞	1992.2.3	現代詩手帖 1992.12			特
未	300	分別	人間は 死ねばゴミになる		1992.6.4				
未	344	夢の島	戦争で 東京は焼野原になった。	東京新聞	1992.10.1				
未	21	明日に光あれ	暗黒の宇宙	テレビ静岡「日本の夜明け」	1992年				
未	368	無題	人は 水平線に	テレビ静岡「日本の夜明け」未使用	1992年				
未	312	松尾寺	東京・渋谷の駅ビル構内に	朝日新聞	1994.5.6	現代詩手帖 1994.12			特
未	316	湖一二題	スコットランド/泣いている人の	民主文学	1994.8月				
未	288	悲願	西暦二〇〇〇年	掲載誌不明	2000?				
未	367	無題	ここにきて		2002.6.16				
未	12	秋田にて	十一月の						
未	14	秋の空	空には窓がある	*（銀行員の詩集応募か）					
未	19	あしたのさよなら	さよなら、人よ						
未	37	行く先	どこへ行くんだ						
未	44	犬	西陽のあたる						
未	51	うた	ラジオから						
未	80	顔	靴屋さんを						
未	87	風	君は若いね						レ
未	88	假説	髪の毛は天に根を張っている。						
未	106	木の顔	ネムの木は						
未	113	靴	靴屋さんの店先は						
未	125	工場のタバコ	工場で						
未	145	シコタマ節	あんまりびんぼうしたもので						レ
未	165	(序詞)	ある夏の夕暮れ時						
未	170	真実かなしく	お葬式の日						
未	178	雀	ベランダに						
未	187	選別	地震が						
未	188	早春	小学校を昭和の初期に卒業しましたが						
未	189	その人の名はいえない	もく もく もく						
未	209	暖国へ	四国の旅をした。						
未	211	ちいさいときから	草は地の面にはびこる						
未	228	年の始めに	海の港	(テレビ静岡「日本の夜明け」)					
未	238	流れる	五月の風が吹いてきた						
未	244	なのはな	なのはな						レ
未	246	鍋のスープ	母親はちいさいお玉じゃくして						レ
未	253	虹	虹が出ると						レ
未	254	虹	虹がかかる						
未	261	歯	いつからだろう						
未	294	フォークランド	生まれてこのかた						
未	298	冬の道	かたいつぼみのように						
未	324	メガネ	おじいさんのかけてる						
未	332	「やくそく」	春にはモナリザがくる、という						
未	343	ゆめ	死ぬことは						
未	346	ゆりかごのうた	夜がきたら						レ
未	347	世に愚かなれど	お前はバカだね						
未	359	レンズ	年をとると	(みや通信社へ)					
未	369	無題	私たちの世界では 時に	(テレビ静岡「日本の夜明け」)					